

III お知らせ

● おいけん主催 冬のネイチャーツアー開催のお知らせ

すべての公共交通機関がストップし、休業に入る宿も多い奥入瀬は「お休み」のイメージが強い季節です。しかし白銀の下には春の訪れを待つ緑のコケの姿があります。「足跡」で静かな存在感を主張している動物たちがいま。ハッとさせられることしばしば、雪や氷の造形美があります。いつも通り、ルーペやカメラを片手に森へ出かけてみませんか。冬の森の気軽なコケさんぽも一興です。ツアーの詳細は順次ホームページに公開していく予定です。



● おいけん主催 春のネイチャーツアー開催のお知らせ

「立ちどまるから、見えてくる」をコンセプトにした、おいけんプレゼンツのネイチャーツアーをこの春から催行予定にしています。早足に歩いては決して見えてこない<隠花帝国>の美と不思議を觀賞するツアーです。自然の中を「歩く」のではなく「立ちどまる」こと、風景を「見流す」のではなく「観想」することがテーマです。ツアーの詳細は順次ホームページに公開していく予定です。



IV 「おいらせ自然学校」の始動に向けて



おいけんでは地域の環境学習プログラムの提供を目的に、来年度から小学生対象の「おいらせ自然学校」の展開を計画しています。次世代を担う小学生の自然学習活動を通し、十和田市における人口減少問題やエコパーク構想、観光対策などへ中長期的視野で貢献していくことを目的としたものです。地域の子供たちが奥入瀬の魅力と価値を学ぶことで、郷土の自然に関心や誇りを持ち、将来のエコツーリズム産業の担い手に繋がることを期待しています。

【おいけん事務局住所変更のお知らせ】
事務局を現在の焼山地区から十和田市内に移転することに致しました。
電話番号・ファックス番号も変更になりますので、どうぞお間違えのないよう
よろしくお願ひします。なおメールアドレスの変更はありません。

V おいけんのロゴマークができました



このデザインは八戸工業大学感性デザイン学部准教授であり、おいけん役員でもある横溝賢氏によるもの。円形のシンボルは、多様な動植物が生息する<野外博物館>としての奥入瀬の空間性を。葉を模した手は、この地への保全的参加の姿勢を表すと共に、自然と人間との共生関係を。これらの構成によって、自然界のマクロとミクロの関係および持続的な成長を目指す循環システムを表現しています。

NPO 法人奥入瀬自然観光資源研究会
〒034-0095 青森県十和田市西二十一番町 53-7
【電話&FAX】 0176-23-5866
【HP】 <http://www.oiken.org> 【mail】 info@oiken.org



おいけん

NPO法人奥入瀬自然観光資源研究会

瓦版
[Vol.4]
2015.1月



2014 Moss Project

- 日本蘚苔類学会が奥入瀬で開催されました ❶
- おいけん活動報告 ❷
- お知らせ ❸
- 「おいらせ自然学校」の始動に向けて ❹
- おいけんのロゴマークができました ❺

奥入瀬溪流・小さな冬の名物「苔氷」
photo Daisuke Kawai

I 日本蘚苔類学会が奥入瀬で開催されました

2014年8月26日から28日にかけて、日本蘚苔類学会の第43回大会が星野リゾート奥入瀬渓流ホテルにおいて開催され、盛況のうちに終了致しました。大会準備委員長は、おいけん副理事の鮎川恵理がつとめました。

学会では開催記念講演、学会賞受賞講演など通常の学会発表に加え、おいけん共催の特別講演会、写真コンテスト、そしてオプションツアーなどのほか、「日本の貴重なコケの森」認定証授与式が行われ、古木達郎学会長より小山田久十和田市長へとデザイン性に富んだ認定証が授与されました。

「コケの森」認定証の授与式がとりおこなわれるのは、学会においても今回が初めてのことで、その模様は青森県内の各テレビ局や地方紙各社により報道されました。「奥入瀬渓流のコケ」の一般PRに大きく寄与したほか、ただの観光地としてのイメージが根強い奥入瀬の、その学術的な価値のよいアピールになったことと思います。

授与式に次いで行われた特別講演では、国立極地研究所・神田啓史先生より、現地調査から明らかとなった奥入瀬の蘚苔類相についての御講演を頂き、また、おいけん理事長・河井大輔からフィールド・ミュージアムとしての奥入瀬の魅力と価値についてお話をさせて頂きました。

学会発表の内容は分類学、生態学、生理学、遺伝学など多岐に渡り、ベテランの研究者から高校生まで22組が発表、活発な質疑応答が行われました。

オプションの奥入瀬渓流でのコケ観察、十和田湖でのカヌーツアーでは、おいけんメンバーが案内役をつとめました。最終日のエクスカーションは葛の森で行われ、ムクムクゴケが確認されるなど、新たな発見もありました。また希望者へは種差海岸ツアーにも御案内、北東北の自然を満喫して頂きました。



「日本の貴重なコケの森」認定証



『奥入瀬渓流コケハンドブック』が発売されました

奥入瀬ではじめてのコケ図鑑ができました！ 遊歩道沿いでどなたでも観察することのできる代表的な55種を紹介、その特徴や名の由来などをまとめた、ポケットに入るスリムタイプのハンドブックです。監修は奥入瀬の蘚苔類調査を手がけておられる神田啓史氏、写真と文章をおいけん代表の河井大輔が担当しています。本書の特徴のひとつは、掲載種の写真の全てをコンパクトデジタルカメラで撮影していること。コケを撮るのに、必ずしも高価なカメラやレンズは必要ありません。さあ本書を片手に、小さくても個性的な面々とゆっくり向かいあってみませんか。

おいけん事務局、奥入瀬渓流館、十和田ビジターセンター、十和田市現代美術館で販売しています。



1冊 1,350円(税込)

II おいけん活動報告

その1

【奥入瀬の蘚苔類調査が終了しました】

国立極地研究所名誉教授・神田啓史氏による奥入瀬渓流の蘚苔類相調査(青森県支援)が2011年から実施されて来ましたが、2014年の調査をもちまして、いったん終了を迎えました。本年度は5月と11月に実施され、4年間で計6回の調査となりました。現在までに300種類以上が確認されており、2015年春までに報告書がまとめられる予定です。



その2

【奥入瀬渓流・葛の森における菌類概要調査を実施しました】

青森市在住の菌類研究者であり、名著『東北きのこ図鑑』の著者である工藤伸一氏による、葛の森および奥入瀬渓流の路傍で観察できる菌類の概要基礎調査が実施されました(10月2日～4日)。最終日には奥入瀬渓流館において特別講演会『葛の森の菌類の特徴』を開催、地元ガイドや観光関係者など約20名が聴講しました。キノコの基礎知識や毒キノコによる症例、昨今特に気になる放射線との関連など豊富な話題提供に加え、希少種の多いことでも知られる葛の森で記録された約70種類のキノコを、美しいスライドを交えて御紹介頂きました。



その3

【シダ植物をテーマとしたガイド研修(ワークショップ)を開催しました】

北海道ニセコをベースに個性的なエコツアーを展開しているネイチャーガイドの矢吹全氏を講師に迎えた「シダをテーマとしたツアー構築のためのワークショップ」を開催しました(6月18日)。奥入瀬を代表する植物のひとつであるシダ類に焦点をあて、その魅力をどうすればわかりやすくビジターに伝えられるのか。知見をどのようにエコツアーに生かし、展開させていくか。参加者それぞれの着眼点で議論、発表を行いました。個々の自然の魅力を言葉にして伝えるまでの<工程>の重要性を改めて認識する研修会となりました。



その4

【キノコの写真撮影を通じたツアー構築のためのワークショップを開催しました】

北海道阿寒湖において菌類をテーマにした撮影活動に従事するかたわらネイチャーガイドとしても活動している新井文彦氏による「菌類をテーマとしたツアー構築のためのワークショップ」を開催しました(9月20日)。参加者はキノコの写真撮影のコツを学んだ上で、実際に自分たちで撮影した写真をどのようにしてガイディングにつなげ、ストーリーを組み立てていくかを議論・発表しました。写真を撮るという行為によって、いろいろな対象に目が向き、そこから自然の見方が変わることを実感。ビジターに森の魅力を伝える有効なツールとしての可能性が示唆されました。



◆ 以上はいずれも青森県観光戦略局からの受託業務『十和田・奥入瀬観光コンテンツ魅力拡大強化業務』の業務内容に基づく活動です